

MRI造影検査(造影剤投与)についての説明書

(患者様控)

1. 造影剤の使用目的

検査の際に造影剤を使用します。造影剤を使用することで、病気の有無、範囲、性質などをより詳しく検査することができます。

※ MRI検査ではガドリニウム造影剤を使用します。腎機能が正常であれば、ほとんどが腎臓から尿として排泄されます。

2. 造影剤の使用方法

造影剤は静脈から投与します。あらかじめ針を留置して準備します。

3. 検査による危険造影性・副作用について

- ① 軽い副作用 : 頭痛、吐き気、嘔吐、熱感、発疹、発赤、かゆみ、せきなどです。
頭痛、吐き気、嘔吐、熱感、発疹、発赤、かゆみ、せきなどです。基本的に治療は不要ですが、投薬や注射をする場合もあります。発生頻度は0.4%程度です。
- ② 重い副作用 : 血圧低下、呼吸困難、けいれん発作、意識障害、腎不全などです。
このような副作用がでた場合、入院や治療が必要となり、気管内挿管などの特別な治療を行うこともあります。時には後遺症を残すことがあります。発生頻度は0.05%程度です。
- ③ 死亡例 : 病状・体質によっては0.00001%以下の割合で死亡例が報告されています。
- ④ 血管外への漏れ : 造影剤を勢いよく注入することで、血管外へ漏れることがあります。
注射部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、通常は時間とともに吸収されますので心配ありません。非常にまれですが、漏れた場合は別の処置が必要となることもあります。

4. 医師はこれらの副作用をよく考えたうえで、造影剤を使用して検査した方が患者様の利益になると判断した場合に造影検査をおすすめしています。

当院では万一の副作用に対して、万全の体制を整えて検査を行っておりますが、造影による副作用は、まれに検査後数時間から数日後に発生する場合がありますので、もし変だと感じることがありましたら、すぐに当院へお知らせ下さい。

※不明な点やお問い合わせは、下記の方までご連絡下さい。

医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院 病診連携窓口 電話:0233-28-0570